

# 組織・年金基金・教育で意見交換

## 大阪代協が委員交流会を開催

大阪代協(事業活性化委員会主管)は8月10日午後1時半から、大阪市北区のあいおいニッセイ同和損保フエニックスタワー大会議室で同代協6委員会の委員交流会を開いた。



委員交流会の様子

冒頭、安本周史事業活性化委員長が交流会の趣

旨を次のように説明。「昨年委員オリエンテーションをして、アンケートをとったところ、もっと自由に発言できる形のものにならないかという意見がありました。そこで今年、委員交流会を開くことになりました。お互いの委員会や自身所属する委員会を深く理解することで代協活動に役立ててもらいたい」

黒石光寿会長は「委員会の横のつながりを深めお互いに理解してもらいたい。今日は一つでも多くのことを学んでいって

ください」と挨拶。グループディスカッション第1部では、各グループ6人から8人程度で7グループに分かれ、自己紹介や所属委員会の活動内容の紹介などを行った。グループディスカッション第2部に入る前に、数字が求められる組織委員会、年金基金委員会、教育委員会から取り組み内容について説明があった。それを受けて第2部ではグループごとに組織(3グループ)、年金基金(2グループ)、教育(2グループ)のテーマが振り分けられ、活性化に向けての意見交換などが行われた。約1時間のディスカッションのあと各グループの代表から発表があった。

テーマごとの主な発表内容は次のとおり。

○組織 「人任せにせず、全員で会員を増やしていくという意識を持つ」

「若い人たちにも魅力ある組織にしてほしい」

○年金基金 「ちらだけでは内容が不十分。提携業者や保険会社との連携も必要では」

「法人代理店が多く、取組みが大変だが、地道に声をかけ、年金基金について理解してもらおうとが大事」

○教育 「勧める側が損害保険大学課程コンサルティンクコースについて十分理解していない」

「保険会社の業務連絡会などを活用し代理店や社員に損害保険大学課程を案内する」

このあと、安本委員長がまとめとして「初めての試みでしたが、大阪代協として三委員会の目標をせひとも達成し、大阪代協ここにありと全国に存在感を示したい」と述べた。最後に大成功一副委員長が「三委員会は我々にとっては生命線です。お互いに協力し合って目標を達成しましょう」と閉会挨拶を行った。